

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名：中小企業の業況(10月調査)

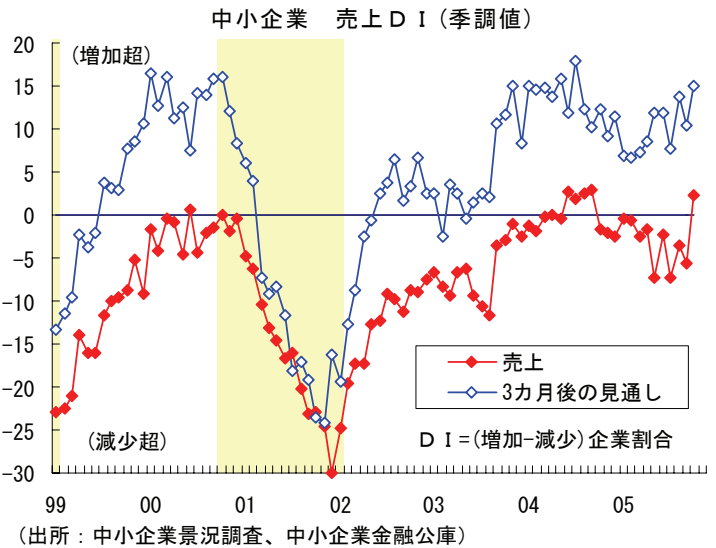
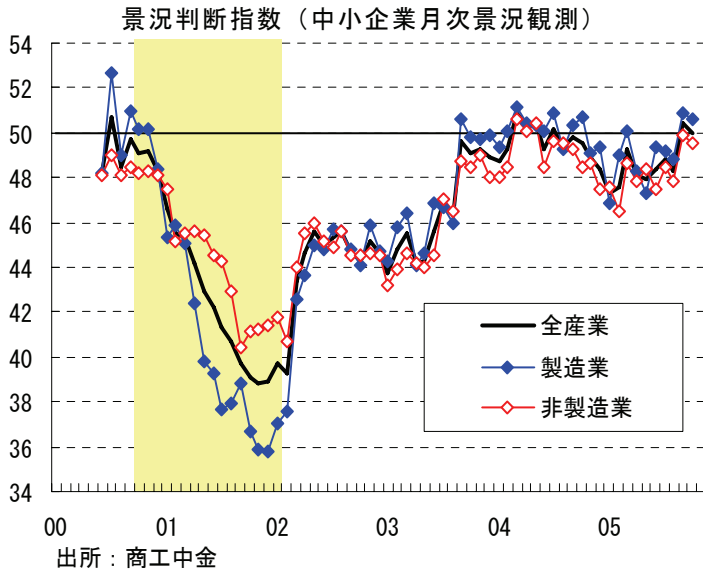
発表日：2005年11月1日(火)

～ じわり じわり ～

(No. J - 151)

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 新家 義貴(03-5221-4528)



○ 中小企業の業況感にも持ち直しの動き

10月27日に商工中金から公表された「中小企業月次景況観測」では、10月の景況判断指数(1000社調査)は50.0(9月50.4)と前月から▲0.4ポイントの小幅悪化となった。もっともこれは、前月に大きく上昇した反動という面が大きい。「好転」と「悪化」の分岐点である50は2ヶ月連続で上回っており、比較的良好な結果である。内訳では製造業が前月差▲0.3ポイント悪化の50.6、非製造業が同▲0.4ポイント悪化の49.5となっている。

また、本日、中小企業金融公庫から公表された「中小企業景況調査」では10月の売上D Iは2.3(9月▲5.6)と前月から+7.9ポイントの大幅改善となり、2004年9月以来13ヶ月ぶりにプラスに転じた。内訳をみると、このところ特に設備投資関連と乗用車関連の改善が目立っており、全体を牽引している。また、輸出比率の高い企業の売上D Iが今月大幅に改善していることも特筆される。

このように、年初から一進一退の推移を続けてきた中小企業の業況に関しても足元でじわりと改善している。設備投資を中心とした内需が引き続き底堅く推移していることや、輸出が徐々に持ち直してきていることから売上げが回復してきていることに加え、株価の上昇が企業マインドを明るくさせたことなどが業況感の改善に繋がったと考えられる。中小企業は大企業と比べると改善が遅れており、水準も低いことは確かだが、今後も方向性としては緩やかながら改善に向かっていくだろう。

○ 年度下期の設備投資も堅調。焦点は2006年度の持続性

中小企業金融公庫からは、本日、中小企業設備投資動向調査も公表されている。これによると、2005年度の設備投資計画(修正計画)は前年度実績比+11.6%と当初計画の▲8.4%から上方修正された。2004年度に+23.2%と大幅に増加した後にもかかわらず二桁増加を見込んでおり、非常に強い。業種の内訳では、鉄

鋼（前年度比+45.1%）、輸送用機器（同+19.9%）、一般機器（同+12.9%）、金属製品（同+25.6%）などが目立った。今回の設備投資増加は、小数の業種にのみ牽引されているわけではなく、幅広い業種に回復が広がっていることが大きな特徴だ。

また、年度を上期と下期に分けてみると、上期が前年同期比+9.3%、下期が+13.9%となっている。下期に伸びが高まる計画となっており、下期以降の設備投資も引き続き底堅く推移することが示唆されている。このことは機械受注などの他の経済指標とも整合的だ。今後の設備投資の焦点は、2006年度以降もこうした強さが維持できるか否かに移ってきた。